

日中対照の立場からみた日本語の名詞述語文

王 燕*

A study of Nominal predicate sentence
by contrasting Japanese with corresponding Chinese

Wang Yan*

日中対照の立場からみた日本語の名詞述語文

王 燕*

A study of Nominal predicate sentence
by contrasting Japanese with corresponding Chinese

Wang Yan*

Received December 4, 2015

Abstract

Noun or noun phrase can make a predicate. The sentence which contains a predicate like this is called Noun Predicate Sentence. I assume the use of Noun Predicate Sentence in Japanese is much more than the use of it in Chinese in this thesis and I found the proof of the assumption on the 3 angles as below.1.The range of the use of Noun Predicate Sentence in both Japanese and Chinese.2.The diversity of the use of Noun Predicate Sentence in Japanese.3.The particular use of Noun Predicate Sentence in Japanese.

1. はじめに

週に一回の中国語教室で、中国人の教師が「下周休息。」と休講を知らせるとする。同じことを日本語で知らせると、「来週はお休みです。」となる。もし、教師が「来週は休みます。」とでも言ったら、受講者たちは、それは「休講のお知らせ」というより、「先生は個人的な理由で授業を休む」ということとして、受け止めることになる。日本語母語話者が言う。

このように、中国語では、動詞述語文によって言い表される物事が、日本語では、動詞述語文ではなく、名詞述語文の形となっていることは、数多く観察できる。述語の品詞を基準にして文を分類する方法は、中国語と日本語も例外なく、多くの言語に見られる分類法である。そして、語学教育の場では、名詞述語文・形容詞述語文・動詞述語文は、しばしば文法用語として使われている。しかし、中国語母語話者にとっては、日本語の名詞述語文のことを中国語における名詞述語文に当てはめようとしたら、日本語の大きな特徴の一つを見落としてしまうだけでなく、日本語への理解や日本語での運用の妨げにもなると思われる。

王(2012)では、日本語を学習・研究している中国人学習者や研究者の間で、中国語と比べて、日本語では「名詞述語文」が多用されている、という感触を持っている人がかなりいるという現象に注目し、その裏付けを探るため、日本語と中国語で書かれた小説を調査の対象素材にして、日本語と中国語における「名詞述語文」の実際の使用状況を調べた。その結果、日本語では動詞述語が最も多く用いられ、名詞述語が形容詞述語に次いで最も使用率が低い構文形態であることと、中国語では、「是」構文、名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文などの構

*国際交流センター International Exchange Center

文形態のうち、動詞述語の使用率が断然高いという現象が観察されている。この結果は、中国語母語話者の「日本語では名詞述語文が多用されている」という感触の裏付けにはならなかったが、日中両国語とも、動詞述語文の使用率が高いことや、両言語における名詞述語文および他の構文形態の使用割合を明らかにすることなどには貢献している。しかし、「日本語では名詞述語文が多用されている」ことを払拭できたのであろうか。そもそも、「日本語では名詞述語文が多用されている」という感触は、日本語そのものについての感触というより、「中国語と比べて」ということを前提となっている。従って、調査の対象素材としては、それぞれの言語で書かれた小説というものではなく、日本語の小説とその中国語訳、または、中国語の小説とその日本語訳における名詞述語文の使用を調べれば、どのような調査結果になるのか、興味深いことである。

小説はともかく、日常生活での言語使用においては、日本語の名詞述語文は大いに活躍していることは、王（2014）の考察からも窺える。本稿は、それに踏まえて、「中国語と比べて、日本語では、名詞述語文が多用されている」という「感触」をあえて仮説として立て、王（2012）のような「数値的統計」とは異なる角度から、中国語との対照をしながら、日本語の名詞述語文の多用を検証してみる。

以下の順で述べていく。まず、日中両国語における名詞述語文の範囲を概観する。次に、中国語に見られない日本語の述語名詞のバリエーションと述部形成に使われる名詞の振る舞いから、日中両国語における名詞述語文の量的な違いの根本的な原因を探る。最後に、本稿のまとめをする。

2. 日中両国語における名詞述語文の範囲

名詞の統語的機能は名詞述語文の範囲と関係するので、日中両国語における名詞述語文の範囲を概観する前に、まず、述語になる名詞の日中両国語における統語的機能の異同を見てみよう。

2-1. 日中両国語における名詞の統語的機能

- (1) バスが来た。
- (1') 公交车来了。
- (2) 私はリンゴを食べる。
- (2') 我吃苹果。
- (3) 五時に行く。
- (3') 五点去。
- (4) 先生のパソコンは新しい。
- (4') 老师的电脑很新。
- (5) 兄ちゃん!
- (5') 哥哥!

下線が引かれたところの日本語と中国語を見比べれば分かるように、名詞は主語、目的語、状況語、連体修飾語と独立語になることは、どちらの言語においても、名詞の基本的な機能である。

しかし、述語になると、事情が異なってくる。

日本語では、名詞はコンピュータ（だ・である・です・でございます）を伴って述語になる。しかし、(6)の日本語の名詞述語文に対応する(6')の中国語は、研究者の間では、名詞述語文と認めるかどうかは分かれている。

- (6) 弟は弁護士です。
(6') 弟弟是律师。

通常、中国語の「是」は、「A 是 B」という形で、「是」が判断の意味を表す動詞として使われる場合、A と B は、イコールの関係か従属する関係かのどちらかを表す。いわゆる「是」構文の一種である。これは日本語の典型的な名詞述語文「A は B だ」における「A」と「B」が同一関係か包摂関係かのどちらかを表すのと一緒である。

- (7) 这位是我们的汉语老师。
(7') こちらは私たちの中国語の先生です。
(8) 一郎是位优秀的棒球运动员。
(8') イチローは優れた野球選手です。

「是」を動詞として認める以上、(6') (7) (8) のような中国語は当然、名詞述語文でなくなる。

しかし、中国語の名詞は述語になることは全くないというわけでもない。話し言葉で、時刻・年齢などを表す場合、(9) (10) のように、習慣的に「是」を用いない。

- (9) 现在 12 点。 今は 12 時です。
(10) 我爷爷今年 83 岁。 おじいちゃんは今年 83 歳です。

「是」構文を名詞述語文と認めない人でも、(9) (10) のような「是」抜きの表現を名詞述語文と認めざるを得ない。しかし、その数は限られている。詳しくは次のセクションで述べる。

名詞の統語的機能を論ずる際、日本語の形式名詞に触れないわけにはいかない。形式名詞とは、日本語における名詞の下位分類の一つで、それ自体には、実質的意義が薄く、連体修飾語を受けて名詞句を作る名詞のことである。(11) (12) の「もの」と (13) (14) の「こと」がそれである。下線は筆者による。

- (11) 世間は狭いものですね。 世界真小啊。
(12) 彼の将来は知れたものだ。 他将来没多大出息。
(13) 疲れた時は、ゆっくり休むことだ。 累了的时候，要好好休息。
(14) 道中はいかがでしたか。さぞお疲れになったことでしょう。 一路上怎么样？一定很累了吧。

中国語には、日本語の形式名詞に当たるものはない。映画好きな人は自分の趣味について言う場合、日本語母語話者なら、次の (15) か (16) のどちらかを口にするであろう。

- (15) 映画を見るのが好きです。
(16) 趣味は映画観賞です。/趣味は映画を見ることです。

中国語母語話者なら、

- (15') 我喜欢看电影。
(16') 我的爱好是看电影。

と言うであろう。(15)と(15')、(16)と(16')は意味的にも構文的にも立派に対応している。しかし、(11)～(14)の中国語訳から分かるように、いずれも動詞文をもって、日本語の形式名詞で締めくくっている名詞述語文に対応させている。

以上見てきた名詞の統語的機能から、日中両国語における名詞述語文については、次の二点にまとめることができる。

その一、主語、目的語、状況語、連体修飾語と独立語になることは、日中両国語の名詞に共通して見られる統語的機能であるが、述語になることは、日本語の名詞の基本的な統語的機能の一つでもあるのに対し、中国語の名詞の「条件付き」の統語的機能としか言えない。その「条件」とは、話し言葉に限ることと日時や年齢など、言い表す内容が限られていることである。その二、日本語には、連体修飾語を受けて名詞句を作る形式名詞がある。この形式名詞は、名詞述語文の述語名詞にもなるが、中国語には似たような形式名詞は存在しない。この二点とも日中両国語における名詞述語文の使用に大きく影響していることは言うまでもなからう。

(9)(10)のような、話し言葉で、しかも時刻や年齢など限られたことしか表せないという条件付きの中国語の名詞述語文の日本語訳を見れば分かるように、この条件付きの中国語の名詞述語文に対応する日本語は同じく名詞述語文である。しかし、形式名詞が述語に用いられる

(11)～(14)のような日本語に対応する中国語は動詞文だったり、形容詞文だったりする。このアンバランスの対応関係は、中国語の名詞述語文は量的には、とうてい日本語の名詞述語文にかなわないことを示唆している。

2-2. 日中両国語における名詞述語文の範囲

名詞述語文とは、文字通り、名詞または名詞フレーズが述語となっている文のことである。しかし、一口に「名詞述語文」と言っても、中国語は(17)のように、名詞を並べるだけであるのに対し、日本語は、(18)(19)のように、主語には「は」という係助詞や「が」という格助詞が付いていて、文末に「だ」というコピュラが付いている。「だ」のことは、「助動詞」のほかに、「判定詞」と言われたり、「用言形成詞」と言われたりもする。このネーミングの多彩さからも、「だ」の役割はけっして単純なものではないということが窺える。

- | | |
|--------------|---------|
| (17) 今天晴天。 | 今日は晴れた。 |
| (18) 明日は曇りだ。 | 明天阴天。 |
| (19) 桜が満開だ。 | 樱花全开了。 |

2-2-1. 中国語における名詞述語文

前に触れたように、「弟弟是律师。」という言い方は、「是」が用いられているため、研究者の間では、名詞述語文と認めない人もいる。中国語の「是」構文の「是」は、英語のbe動詞でも日本語のコピュラの「だ」でもないという考えをもとにしている本稿は、中国語の名詞述語文は、「是」を用いる文と「是」を用いない文に分けることができるという立場をとる。

(20)は「是」を用いる名詞述語文の平叙文で、(21)と(22)はそれぞれ「是」を用いる名詞述語文の否定文と疑問文である。

- | | |
|-------------|--------------|
| (20) 我是学生。 | 私は学生です。 |
| (21) 我不是学生。 | 私は学生ではありません。 |

(22) 你是学生吗？ 君は学生ですか。

英語の be 動詞と違って、中国語の「是」は、主語の人称が変わっても、「是」そのものは変わらない。

中国語では、「是」を用いない名詞述語文は平叙文に限られている。

(23) 今天星期天。 今日の日曜日です。

否定文と疑問文の場合は、「是」の省略はできない。

(24) 今天不是星期天。 今日の日曜日ではありません。

(25) 今天是星期天吗？ 今日の日曜日ですか。

「是」を用いない中国語の名詞述語文は、述語として使える名詞や名詞フレーズの種類が限られているため、時刻・年齢のほか、(26)～(32)のように、天候・日時・身長・価格・職業・出身・番号などを表す場合にしか使われていない。

(26) 明天什么天气？ 明日の天気はどうですか。

(27) 你的生日几月几号？ お誕生日は何月何日ですか。

(28) 我一米六。 私の身長は 160 センチです。

(29) 这支笔多少钱？ このペンはいくらですか。

(30) 她大学教师。 彼女は大学の教師です。

(31) 他上海人。 彼は上海出身です。

(32) 我的房间多少号？ 私の部屋は何番ですか。

否定の場合、否定副詞「不」と動詞「是」が省略できないので、「是」を述語に持つ動詞述語文になる。そのため、「她不是大学教师。」のような表現は名詞述語文と認めない人もいるわけである。

量的には多くはないが、物事の様子を描写する次のような表現も、中国語の名詞述語文の一種である。

(33) 他大眼睛，高个子。 彼は目がぱっちりしていて、背が高い。

(34) 这个茶几三条腿。 この茶卓は三本足だ。

「是」を用いる中国語の名詞述語文に対応する日本語が、すべて名詞述語文である。(26)～(32)のような、話し言葉で、しかも天候・職業・出身など限られたことしか表せないという条件付きの中国語の名詞述語文の日本語訳を見れば分かるように、中国語の名詞述語文に対応する日本語は同じく名詞述語文である。しかし、「是」を用いない文しか名詞述語文と認めないという人もいるということを見ると、日本語の名詞述語文の使用は量的に中国語のそれを簡単に超えていると考えられよう。

2-2-2. 日本語における名詞述語文

中国語の「工作」という単語は、「工作进展顺利。」(仕事が捗っている。)と言う場合は名詞で

あるが、「你在哪儿工作？」（お勤めはどちらですか。）と言うと、動詞となる。単語レベルでは、名詞でも動詞でもある。中国語と異なり、日本語の名詞は、単語レベルで、名詞であるかどうか形で分かる。従って、意味のいかんにかかわらず、述語にさえ用いられれば、その文は名詞述語文になる。

数多く使われている日本語の名詞述語文は、中国語との対応関係に限ってみればという立場から、典型的な名詞述語文と非典型的な名詞述語文とに分けることができる。

次のように、主語の類別・同定・名称提示を行う名詞述語文は日本語における典型的な名詞述語文と言えよう。

- | | |
|-----------------|-----------|
| (35) 鯨は哺乳類動物だ。 | 鲸鱼是哺乳动物。 |
| (36) 東京は日本の首都だ。 | 东京是日本的首都。 |
| (37) 僕は田中太郎です。 | 我是田中太郎。 |

このように、日本語の典型的な名詞述語文に対応するのは、中国語の「是」構文である。一方、

- | | |
|--------------|---------|
| (38) 母は留守です。 | 妈妈不在家。 |
| (39) 自炊ですか。 | 你自己做饭吃？ |

のような名詞述語文は、述語名詞が主語をモノとして述定するものではなく、状態を表したり、動作を表したりする。従って、中国語では、「是」構文や名詞述語文で対応させるのではなく、動詞述語文や形容詞述語文で対応させる。このような対応関係にある名詞述語文は非典型的な名詞述語文で、構文的特徴によって、さらにいくつかのパターンに分けることができる。

- | | |
|----------------------|--------------|
| (40) A：このビルはいつ完成ですか。 | 这座楼什么时候能盖好呀？ |
| B：来年の予定です。 | 预计明年完工。 |
| (41) 女子トイレは二階です。 | 女厕所在二楼。 |
| (42) 花は桜だ。 | 要说花，还数樱花最漂亮。 |
| (43) 私はクラシックです。 | 我喜欢听古典音乐。 |
| (44) 私はもっぱら推理小説です。 | 我主要读推理小说。 |

(40) ～ (44) は、中国語の「是」構文で対応させることができないことから、典型的なコンピュータ文ではないということが分かる。言い換えれば、中国語の動詞述語文や形容詞述語文で対応させているところから、(40) ～ (44) のような名詞述語文は典型的な名詞述語文ではないということが分かる。

高橋（1984）は、名詞述語文における主語と述語の意味的な関係を、動作づけ、状態づけ、性格づけ、同一づけの四つに分類した。それによると、典型的なコンピュータ文は同一づけや性格づけの一部分であるが、動作づけと状態づけのほとんどと性格づけの一部分は非典型的なコンピュータ文となる。(40) は動作づけの文で、(41) は状態づけの文である。(42) は文脈なしでも推測可能な名詞述語文で、(43) と (44) はいわゆる文脈への依存度の高い「ウナギ文」で、文脈の助けがなければ、主語と述語の関係が正確に理解されない可能性もあるので、典型的な名詞述語文から大きく逸脱した名詞述語文の一種と言える。

3. 日本語の名詞述語のバリエーション

中国語の名詞述語は単純語の名詞か、「修飾語＋単純語名詞」のような名詞フレーズのどちらかである。しかし、日本語の名詞述語は膠着語である日本語ならではのバリエーションに富んでいる。

3-1. 単純語の場合

- | | |
|-----------|------|
| (45) 雨だ! | 下雨了! |
| (46) 火事だ! | 着火了! |
| (47) 地震だ! | 地震了! |

日本語は、その場で感じた変化や動きを名詞一つで言い表すことができるが、中国語は動詞や語気助詞の「了」なしでは言い表せない。従って、同じことを表現するのに、日本語では名詞述語文、中国語では動詞述語文が使われることになる。

- | | |
|--------------------|------------|
| (48) 彼はマザコンだ。 | 他有恋母情结。 |
| (49) 検査の結果はプラスだった。 | 检查的结果呈阳性。 |
| (50) 京都での撮影は久々だった。 | 很久没在京都拍照了。 |

(48) ~ (50) は同じく単純語の名詞が述語に使われているが、(49) の中国語訳の「呈」は「是」に言い換えしても構わないが、(48) の中国語訳の「有」という動詞は「是」には言い換えることはできない。(50) の対応関係も日中両国語における名詞述語文対動詞述語文のパターンの一つである。

中国語の名詞は形容詞の修飾を受けることができるが、副詞の修飾を受けることは普通ではない。範囲を限定する副詞の中には、名詞の修飾語になる「就」や「光」のようなものがあるが、数が少ない。しかし、日本語の名詞は、形容詞は言うまでもなく、副詞の修飾を受けることもできる。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| (51) 凄い行列ですね。 | 这队排的够长的。 |
| (52) あっという間に12月ですね。 | 转眼又到了十二月份了。 |
| (53) 日本に来て、まだ半年だ。 | 我来日本才半年。 |
| (54) 彼は非常に臆病だ。 | 他非常胆小。 |
| (55) 私は心身ともに健康です。 | 我身心都很健康。 |
| (56) 朝八時頃の電車はいつも満員だ。 | 早晨八点钟左右的电车总是很挤。 |
| (57) プロ野球はいよいよ明日開幕ですね。 | 职业棒球联赛明天就要开始了。 |

(51) のように、日本語では、「凄い＋名詞」のような組み合わせである名詞句一つで、目の当たりにしたことを感慨深く言うことができる。中国語で表現する場合、「好长的队啊!」と、日本語のような無主語文で対応させることも可能であるが、やはりその形容詞と名詞の意味的關係によって、日本語における述語名詞を主語にしたほうが中国語らしい言い方になる。「凄い雨ですね。」を「好大的雨啊!」と訳しても「这雨下得够大的!」と訳しても構わないが、「凄い渋滞ですね。」を「好堵的车啊!」より「这车堵得够厉害的!」と訳した方が無難であろう。

中国語には、(53) の中国語訳のような、副詞「才」が名詞「半年」の修飾語になっている名詞述語文もあるが、(51) ~ (57) の中国語訳から分かるように、形容詞や副詞の修飾を受けられる日本語の名詞述語文は、意味的には様子や状態を表すことになるため、中国語では、形容詞

述語文や動詞述語文で対応させることが圧倒的に多い。

また、孤立語である中国語には、日本語の「テ・ニ・ヲ・ハ」のような助詞はない。次の (58) ~ (64) のように、日本語の名詞は何らかの助詞と共に起ることによって、名詞述語文の表現領域を大きく拓くことができる。下線は筆者による。

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| (58) 今日 <u>も</u> 雨ですね。 | 今天又下雨了。 |
| (59) 来週 <u>から</u> 試験だ。 | 下周要考试了。 |
| (60) 天気予報では、午後 <u>から</u> 雨だ。 | 天气预报说，午后有雨。 |
| (61) 君の意見 <u>に</u> 賛成だ。 | 我赞成你的意见。 |
| (62) 押しつけ結婚 <u>に</u> は反対です。 | 我反对包办婚姻。 |
| (63) 彼は私 <u>より</u> 年上ではありません。 | 他不比我大。 |
| (64) あんまり長湯すると、体 <u>に</u> 毒ですよ。 | 泡澡时间太长，对身体不好。 |

今まで、日本語の助詞の役割は主に動詞述語との関係を中心に研究されてきた。(58) ~ (64) の中国語訳を見て分かるように、名詞述語文における助詞の役割は動詞述語文のそれよりも果たされている。

3-2. 動詞「ます形」からの転成名詞の場合

「転成」とは、ある語がその意味や機能を変えて、別品詞として働くようになることである。日本語では、動詞の「ます形」は名詞に転成するものが多い。もともと動詞なので、その形と裏腹に、意味的には動的概念を表すのである。

- | | |
|-------------------------|--------------|
| (65) 何の騒ぎだ？ | 出什么事了？ |
| (66) 詳細は以下の通りです。 | 详情如下所述。 |
| (67) 彼は物知りです。 | 他知识面很广。 |
| (68) 父の趣味は釣りだ。 | 爸爸喜欢钓鱼。 |
| (69) この字は絶対書き間違いです。 | 这个字一定写错了。 |
| (70) 小数点以下は切り捨てです。 | 小数点以下舍去。 |
| (71) 最後まで笑うものが勝ちだ。 | 谁笑到最后，谁笑得最好。 |
| (72) 事故の原因は、スピードの出しすぎだ。 | 事故原因在于超速。 |

動詞からできた転成名詞は、様々な意味を表している。それは単純語のみならず、合成語においても同様である。

3-3. 合成語の場合

日本語では、合成語は複合語と派生語に分けることができるのに対し、中国語では、まとめて「复合词」と言うのが一般的である。ネーミングが似ていても、概念的には必ずしも同じものを言っているとは限らない。前に触れたように、中国語の名詞述語文に使われる名詞は限られている。これから見ていく日本語の述語名詞は中国語にないものである。複合語と派生語の順で見ていく。

3-3-1. 複合語の場合

(73) うちが5人家族です。	我家有5口人。
(74) 8時以後は外出禁止です。	八点钟以后禁止外出。
(75) この道は右折禁止ですよ。	这条路禁止右拐。
(76) 太郎は役者志望だった。	太郎想当演员来着。
(77) 外線はゼロ発信です。	打外線先拨零。
(78) 時間を大切にしている人はたいてい早起きです。	珍惜时间的人都起得早。
(79) この会員証は、もう期限切れです。	这张会员卡已经过期了。
(80) この角煮はもう煮えすぎ(だ)よ。	这红烧肉煮过头了。
(81) 問題は山積みだ。	问题堆积如山。
(82) 先生のご家族も犬好きですね。	老师的家人也喜欢狗啊。
(83) 隣の家のピアノがとても耳障りだ。	邻居家的钢琴很刺耳。
(84) このバスはどこ行きですか。	这路公交车到哪儿?
(85) 事故の現場は大変な人だかりだった。	事故现场人山人海。
(86) この路線バスは運賃前払いです。	这趟公交车实行预付车费制。
(87) 彼女はお父さんが外交官で、子どもの頃からずっと海外暮らしだ。	她父亲是外交官，她从小就在海外生活。

これらの複合名詞のうち、動詞の造語成分を語構造の核として含み、それに他の造語成分が結びついているタイプが多い。矢印で示すと、次のような変換過程となる。

ゼロ発信	←	ゼロから発信する
早起き	←	早く起きる
期限切れ	←	期限が切れる
山積み	←	山のように積む
耳障り	←	耳に障る
どこ行き	←	どこへ行く
海外暮らし	←	海外で暮らす

形の上では、名詞となっではいるが、意味的には複合名詞になる前のままである。このような複合名詞が述語に使われる日本語に、動詞文である中国語で対応させるしかない。

3-3-2. 派生語の場合

接頭辞や接尾辞は語基に結合してできた派生語の中には、語基の意味に形容詞的な意味合いや動詞的な意味合いを持たせるものが多いため、対応する中国語は動詞述語文だったり形容詞文だったりする。

(88) あの人は大金持ちです。	他非常有钱。
(89) あなたって、本当に無責任です。	你可真不负责任!
(90) 彼はこの仕事については不案内だ。	他对这工作不熟悉。
(91) 社長はいまちょうど会議中です	总经理现在正在开会呢。

- (92) 彼女はすこし緊張ぎみだった。 她刚才稍微有点儿紧张。
 (93) 山田君のゴルフはプロ並みだね。 山田打高尔夫相当于专业水平啦。
 (94) この三連休はゆっくり休むどころか、仕事に追われ通しだった。
 这个三连休别说好好休息了，一直被工作压得透不过气来。

4. 日本語の述部形成に使われる名詞

日本語の名詞述語文の中には、文の最後に名詞で文を締めくくるように終わらせる名詞述語文がある。その文末に使われる名詞は実質名詞の場合と形式名詞の場合がある。実質名詞が文末の名詞に使われる名詞述語文はいままで、少なくとも中国における日本語教育の現場では、あまり重要視されてはこなかった。形式名詞が文末の名詞に使われる名詞述語文のほとんどが文型表現として取り上げられてきた。

4-1. 実質名詞の締め括り型名詞述語文

次の文末に使われている「人」、「感じ」は、なくても文としては成り立つはずである。

- (95) 彼はてきぱき事をさばく人だ。 他这个人办事特别痛快。
 (96) あの人にはなにやらがたがたと文句ばかり言う人だ。 那个人就爱嘟嘟囔囔地发些牢骚。
 (97) 運動したら、何だか体が軽くなったような感じだ。 运动以后，总感觉身体变轻了一样。
 (98) 彼女は美人というより、むしろ可愛いという感じだ。
 说她是美人，倒不如说她让人感觉很可爱。

中国語母語話者にとって、このような締め括り型名詞述語文は、理解はしやすいが、アウトプットは難しい。こんな言い方の裏には、日本語母語話者独特の考え方が働いていると思われる。パターン化して、その使用心理を明らかにすることが待たされる。

- (99) それを食べる気ですか。 你还真想吃它啊？
 (100) あいつは本当に悪い奴だ。 那个家伙坏透了。
 (101) あの女は生活の全てにおいて打算的な性格です。 那个女人做任何事都有目的。
 (102) 6月が来たばかりなのに、真夏のような暑さだ。 刚到6月却像盛夏一样炎热。
 (103) 受賞の知らせを聞いた時には、天にも昇る心地だった。
 听到获奖的消息时，高兴得不得了。
 (104) 私の英語は、かろうじて日常会話ができる程度だ。
 我的英语的程度只能勉强说点儿日常会话。
 (105) 国連はあくまでも平和的な解決に向けて話し合いを続ける考えです。
 联合国至始至终认为要继续通过谈判以达到和平解决的目的。
 (106) 事故の全貌が明らかになるに従って、更に犠牲者が増える見込みである。
 随着事故全貌逐步被查明，估计死亡人数还会有所增加。
 (107) 法則性を発見し、目から鱗を落ちる思いだった。
 我发现了其中的规律，感觉真是茅塞顿开。
 (108) 初めて食べた納豆は、何とも言いがたい味だった。
 第一次吃纳豆，感觉有股说不出的味道。

- (109) 彼女が選んだ花束はいかにも彼女らしい優しい色合いだった。
她选择的花束的色调完全像她一样那么柔和。
- (110) 夏休みには北海道の農家にホームステイする予定です。
暑假计划去北海道的农家体验寄宿生活。

(99) ~ (110) の文末名詞は実質名詞として使うこともできる。次の文末名詞は文法化が進んで、名詞の一部となっている。

- (111) その本はまだ読みかけだ。 那书我刚看了一半。
- (112) 若い者は極端に走りがちだ。 年轻人往往好走极端。
- (113) 先生、朝からずっと座りっぱなしですよ。 老师，您从早上开始就一直坐着。
- (114) 私はすこしコツがわかってきたばかりです。 我刚摸着一点儿门。
- (115) 桜の木は台風で倒れたままだ。 被台风吹倒的樱花树一直倒在那里。
- (116) あなたが訪ねなくても、彼は来るはずですよ。 你不找他，他也会来的。
- (117) この頃なぜかいいことづくめだ。 最近不知为什么总是遇见好事。
- (118) これが成功するかどうかはみんなの努力いかんだ。
此事成功与否，全看大家努力的如何了。
- (119) 出張で香港へ行ったが、忙しくて友達には会わずじまいだった。
出差去了趟香港，但是因为太忙，结果朋友也没见成。

4-2. 形式名詞の締め括り型名詞述語文

次の名詞述語文は、完全に文法化された名詞、即ち形式名詞で締めくくられている。

- (120) 英語の発音への認識は、まったく甘いものでした。
我对英语的发音的认识，过于简单了。
- (121) 彼らはちょうどハンガーストライキを行っているところです。
他们正在进行绝食斗争。
- (122) 事態は悪くなる一方だ。 事态越来越糟。
- (123) 疲れて一歩も歩けないくらいだった。 累得我一步都走不动了。
- (124) 明日のスピーチは原稿を見ずにするつもりです。
明天的演讲、我打算不看稿子。

一種の定形表現なので、日本語教育の場では、文型として習得されるのも理解できる。

5. まとめ

以上、日中対照の立場から、日本語に於ける主語に対する類別や同定の機能を持つ典型的な名詞述語文と動詞的な意味と形容詞的な意味を表すのに機能する非典型的な名詞述語文を、対応する中国語訳付きで見えてきた。

日中両言語における名詞述語文の割合を表で示すと、次のようになる。

日本語	中国語
典型的な名詞述語文	「是」構文 名詞述語文
非典型的な名詞述語文	動詞述語文 形容詞述語文

日本語における典型的な名詞述語文は、中国語における「是」構文と名詞述語文という二種類の構文のことである。一方、日本語における非典型的な名詞述語文は、中国語における動詞述語文または形容詞述語文のことである。

動詞述語文または形容詞述語文をもって日本語の名詞述語文の中の一部分である非典型的な名詞述語文に対応させなければならないという言語事実は、中国語に比べて、日本語の名詞述語文が多用されていることを物語っている。従って、「中国語と比べて、日本語では、名詞述語文が多用されている」という「感触」は根拠ある「感触」であり、仮説としても検証できたわけである。

通常、形容詞と動詞の述語はそれぞれ性質や状態と動きや変化を表すのに対して、名詞述語はものを表す。しかし、日本語の名詞述語文の中、性質・状態のような形容詞的な意味や、動作・変化のような動詞的な意味を表しているものもたくさんある。それは膠着語である日本語ならではの造語法に起因するところが大きいですが、それよりも、コンピュータは名詞を述語用言として機能させるものであるところに一番の理由だと思われる。しかし、言語は所詮道具なので、日本語母語話者がどうして名詞述語文を好んで使っているかということへの究明は今後の研究課題である。

参考文献

- 高橋太郎（1984）「名詞述語文における主語と述語の意味的な関係」
『日本語学』3-12 明治書院
- 王亜新（2011）「日本語と中国語の名詞述語文に見られる共通点と相違点
——“他是谁（誰が彼か）？”等の誤用分析を通じて——
東洋大学人間科学総合研究所紀要 第13号
- 石定栩（2011）《名詞和名詞性成分》北京大学出版社
- 角田太作（2012）「人魚構文と名詞の文法化」国語研プロジェクトレビュー
国立国語研究所
- 王亜新（2012）「日本語と中国語における名詞述語文の使用率に関する数値的統計の試み——日
中対訳コーパスの応用例として——」金澤大学 応用言語学研究論集 2012.3
- 佐藤雄一（2013）「名詞述語文『AはBだ』の種類と使用比率」
共立女子大学国際学部紀要
- 新屋映子（2014）『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房
- 王 燕（2014）「日本語の名詞述語文に関する序論的研究」北陸大学紀要 第38号

例文出典

- 郭華江主編（1994）『日中擬声語擬態語辞典』上海訳文出版社版 東方書店
グループ・ジャマシイ編著徐一平（代表）陶振孝 巴玺维 陈娟 滕军翻译（2001）
『中文版日本語文型辞典』くろしお出版

- 長谷川正時著 (2005) 『通訳メソッドを応用したシャドウイングで学ぶ中国語文法』
スリーエーネットワーク
- 目黒真実監修アスク出版編集部編 (2010) 『日本語表現文型辞典』 ASK
- 杉本達夫・牧田英二共著 (2010) 『クラウン日中辞典』 三省堂
- 贾黎黎主编 (2011) 《日汉笔译教程》北京语言大学出版社